

知事記者会見の概要

日 時：令和8年6月10日（水）10:00～10:26

場 所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 山形県政150周年記念事業の実施について

代表質問

- (1) クマ対策について

フリー質問

- (1) 食料品の消費税減税について
- (2) 代表質問に関連して
- (3) 6月9日の東京事務所管内用務について
- (4) モンテディオ山形新スタジアムに係る共同記者会見について
- (5) 発表事項に関連して

☆発表事項

知事

皆さん、おはようございます。

早速ですけども、山形県は、明治9年（1876年）に現在の県域が確定してから、今年で150年を迎えます。

この節目の年に、これまでの本県の歩みを振り返るとともに、県民の皆様に、本県の価値を見直して、ポジティブな未来をイメージしていただく契機とするため、記念式典及び記念コンサートをはじめ、各種の記念事業を実施いたします。

お配りしている資料のとおり、実施する事業を4つのカテゴリーにまとめております。

「記念式典等」につきましては、記念式典と山形交響楽団による記念コンサートを、9月9日にやまぎん県民ホールで開催します。そのほか、ちょうど150年となる8月21日には、「誕生日の集い」を子どもたちや高校生などの参加を得て開催いたします。なお、記念式典等に係る一般参加者の公募につきましては、7月に入ってから行う予定としております。

そのほか、既に実施中のもも含まれますが、県立博物館での特別展など、関連資料等の展示を行うほか、山形県の未来を題材とした作文や絵画作品の募集、記念映像の制作などを行ってまいります。

県民の皆様には、子どもから大人まで、多世代でこの記念事業に関わっていただき、先人たちの功績に思いを馳せながら、本県の未来を展望する機会にさせていただければと思っております。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

さくらんぼテレビの柿崎と申します。よろしく申し上げます。

お伺いしたいことはクマ対策についてなんですけれども、6月に入ってクマの出没がますます激しくなっているように感じられます。観光地の山寺では6月だけで複数回、目撃情報があり、今後、県民だけでなく観光客への被害も考えられます。

また、クマによるものとみられるサクランボやイチゴの食害も確認されていて、人とクマの距離が一層近づいていると見受けられます。

こうした状況を踏まえて、クマ対策について2点お伺いします。

前回の記者会見で、現在、県では市町村の考えを聴きながらクマ出沒特別警報の内容を検討しているということでしたけれども、特別警報の運用を始めるスケジュールなどは決まりましたでしょうか。

2点目です。特別警報を検討されている中ですけども、現在のクマの出没状況を見ると、人的被害や農作物被害を防ぐためのパトロールの強化や入山規制など、さらに踏み込んだ

対策も必要かと思いますが、現時点で知事はそのような踏み込んだ対策などはお考えでしょうか。

知事

お答えいたします。

まず、1点目についてですけれども、クマ出没「特別警報」につきましては、従来から一段階強い基準として設けることを検討しているところです。

特別警報を発令する場合、山菜採りやキノコ採りなどの行動自粛を促すことや、対象エリアを限定するといったことなどが想定されますので、市町村の皆様のご意見をよく伺う必要があると考えております。

そのため、現在、担当部で行っている市町村へのアンケート結果を踏まえながら、実効性のある内容となるよう要領の改正を行いたいと考えているところです。

本日この件で、担当部と打ち合わせを持つことにしております。その中で運用の開始時期を検討してまいります。

2点目ですけれど、パトロールの強化につきましては、昨年来の状況を踏まえ、市町村で体制の強化が図られておりますし、状況に応じて総合支庁でも実施をしているところであります。

また、入山規制につきましては、特定の区域で人身被害が相次ぎ、加害グマの捕獲ができない場合に、市町村や道路管理者、森林所有者など、地元との合意形成を経て実施することになると考えております。

☆フリー質問

記者

NHKの内藤と申します。よろしく申し上げます。

ちょっと違う話題なんですけれども、消費税について質問をしたいと思います。

食料品の消費減税を巡ってですね、超党派の国民会議で、夏前の中間取りまとめに向けて議論が進められています。

政府・与党内では、レジシステムの改修期間を考慮して、来年4月から1%に引き下げる案というのも検討されています。

自民党は衆議院選挙で食料品の消費税率を2年間ゼロにすることを公約に掲げていたわけなんですけれども、この案について、知事がどのようにお考えになれるかというのを伺えればと思います。

知事

報道によりますと、政府は食料品の消費税を来年の4月から2年間限定で1%に引き下げる方向で調整に入ったとのことでもあります。

消費税率の引き下げが行われれば、県民の皆様の負担は軽くなり、物価高対策として一定の効果が期待されると思います。

一方で、食料品の消費税率が1%になった場合の県と市町村への影響額、これを政府の試算額をもとに機械的に試算しますと、地方消費税と地方交付税を合せて約217億円の減収になると思われます。ちなみに、県は約110億円、市町村は約107億円の減収ということになります。

非常に大きな額でありまして、社会保障や少子化対策などの行政サービスへの支障や将来世代への負担も懸念されるところです。

現在、超党派の国民会議で、諸課題の克服に向けた検討が進められていると承知をしておりますが、地方財源の確保につきましては、現時点では明確な方向が示されていないということで、非常に大きな危機感をいただいているところであります。

今後、代替財源など持続可能な財政運営の確保に具体的かつ丁寧な議論をしていただく必要があるというふうに考えております。

記者

ありがとうございます。

今、お話あったように、やっぱり今後の議論では代替財源の確保など、地方の財源が217億円の減収になるというお話もありましたけど、その確保をやっぱり求めていきたいというところですか。

知事

そうですね。これが要するに、行政サービスが本当に危ないということなので、大変なことだというふうに危機感を持っています。

地方の財源確保は必ずしっかりと取り組んでいただかなければいけないというふうに思っています。

記者

TUY、山口と申します。クマ関連での質問になります。

先ほどの回答と重複してしまうところあると思うんですけど、5月に1988年ぶりの死亡事案があったりとか、先ほどもありましたけど、サクランボの食害があったりとかで、今、現状の県のクマ対策で、知事は十分だとお考えでしょうか。

また、何か十分でないな、ということでしたら、何が足りないのか、どういった対策が重点的に必要になってくるかなど、教えていただけたらと思います。

知事

前回から、やはり一段階高い「特別警報」というようなことも考える必要があるというふうに申し上げておりますし、また、福島県あるいは宇都宮市のクマ被害というのがあります、本当にどちらも大変衝撃的な内容だったというふうに思っています。

クマだからこういうことはしないだろう、とか、そういうことはもう覆されたわけでありまして、宇都宮の事案に至っては4日間も振り回され続けて、住民の方、また、学校も休業になるというような大変大きな影響が生じておりますので、やっぱりそういったことが我が県でも起きる可能性があるということで、そのこともやはり、担当部としっかりと話し合いたいというふうに思っています。

現場が市町村でありますので、市町村、また、猟友会というような関係機関とも、しっかりと今回の事案というものについて話し合いを持って、そしてどのような状況になるかちょっと見当もつかないんですけど、全国的に起きている事案について、検証といたしますか、「こういうときにうちの県はどうする」とか、マニュアルとかいろいろ作ってはいるんですけども、やはり、何回も実際に起きた事案について、自分たちはこういうことを連携して行動しようというようなことを積み重ねていくことが、対策になるというふうに思っています。

記者

日本経済新聞、松尾です。よろしくお願ひします。2点あります。

まず1点目は昨日のことです。昨日、東京に出張されましたよね。午後、30分ばかり首相官邸に行かれて、尾崎官房副長官にお会いになったというふうに（お聞きしています）。その件で、差し支えなければどういう案件で副長官にお会いになって、お話された結果、どういう手ごたえを得られたかということをお教えください。

知事

大変急な出張であったのですけれども、概略だけ申し上げれば、山形新幹線米沢トンネル関連と申し上げますか。これに特定したわけではないのですけれども、幹線鉄道のあり方についてということで、いろいろと状況を把握し、また、どういうふうな動きになるのか、とかですね、そういったことをいろいろとお聞きをしてみました。

あまり詳しくは申し上げられないのですけれども、先週、自民党の政務調査会で近々、幹線鉄道のあり方に関する議論が交わされる見込みであるという情報が入ったんですね。それで、いろいろあるのですけれども、米沢トンネル整備スキーム検討会議では、関係者間での

合意を目指す整備計画や整備スキームの内容が、鉄道を取り巻く最新の情勢に即したものとなるよう、こうした政治の動きも踏まえながら議論を進めていくということで、今回は（第4回山形新幹線米沢トンネル（仮称）整備スキーム）会議の開催を延期することとしたと事務方から報告を受けています。

そういう中で、今朝、6月10日でありますけども、自民党の政務調査会の下に設置されている整備新幹線等鉄道調査会の会合が開催されて、幹線鉄道ネットワークについては、基本計画の路線に係るケーススタディを進めつつ、在来線高速化等に向けた検討を深化すること、との内容も盛り込まれた緊急決議が取りまとめられたと聞いております。これは、いろいろこれまで議論を本県でも積み重ねてきておりますけど、政府へも働きかけを粘り強く続けてきたということが、そういう結果になったのかなということで、山形新幹線をはじめとする幹線鉄道、全国にありますので、その機能強化に向けた大きな一歩であるのではないかと考えております。引き続き、こういった決議の内容ですとか、政府、自民党における今後の議論の状況なども踏まえながら、米沢トンネル整備スキーム検討会議で議論をしっかりと前に進めていきたいというふうに考えているところです。

記者

ありがとうございます。4回目の検討会議ですけれども、ある程度の方向感を出したいというふうに何となく考えていらっしゃると思いますけども、これはその通りにできそうな感じですか。

知事

何とも言えないところなんですけれども、やはりできる限りいろいろな協議会であったり、会議であったり、様々な関係機関に一生懸命働きかけをして、しっかり望ましい方向に進めてもらえるように、これからも粘り強く働きかけていきたいというふうに思っております。

記者

わかりました、ありがとうございます。

もう一個はですね、話変わって、モンテディオ山形の経営についてお伺いします。

15日の月曜日に、モンテディオ山形とエスコンさんの共同記者会見が予定されていて、そこにも県から（観光文化スポーツ部の）黒田部長がお出になると思います。改めて、6月末に、エスコンさんがモンテディオの株の98%を取得して傘下に置くと、県外資本が所有をするクラブになってしまうというのが一点。もう一つが、スタジアムの建設について、エスコンが最大50億、お金を出すということが方向感として見えてるのですが、これに対して、県からエスコンさんに対して希望することとか、期待することというのがあれば教えてください。

知事

当初ですね、3月19日に開催予定だった株式会社モンテディオ山形と株式会社エスコンによる共同記者会見については、諸事情により見送られた、延期されていたというふうに承知をしております。これまで様々な経過がありましたが、現在、スタジアム建設が順調に進められているところであります。そして、共同記者会見の開催に至ったということについては、いろいろと紆余曲折あったというところで、本当に安堵しているところです。

また、期待することになるかと思えますけど、スポーツ施設を核とした街づくりに実績を有するエスコン社が参加してくれるということでありますので、スタジアム建設事業の推進も確実なものとなると思えますし、新たなにぎわいの創出、若者の県内定着、交流人口の拡大といったことにもつながっていくことを大いに期待しているところでございます。

記者

ありがとうございます。

クラブ運営についてですが、県も2%クラブには出資を続けていかれると思えます。ただ一方で、県外資本が98%を占めるということになって、今も例えばこれまでもSCOとか、アビームコンサルティングとか、県外資本は入っていましたが、かなり大きな1社がステークホルダーになるということで、それに対する懸念とかは特にないでしょうか。つまり、ベガルタ仙台は、アイリスオーヤマという地元の企業が再建に乗り出してきたわけですが、県外の企業が再建をするという、これについてはどうでしょうか。

知事

そうですね、プロスポーツでありますので、野球を見ても、やはり民間資本がしっかりと取り組んでいるというようなところがたくさんありますので、私としては、そんなに心配はしておりません。むしろ民間の活力というようなことは、大いにモンテディオ山形を盛り上げ、また県民のスポーツに対する高揚感といいますか、そういったものをしっかりと盛り上げることにつながると思えますし、様々な地域活性化につながるということを期待しているところです。どういうふうになっていくかもしっかり見守りながら、ただ県内とか県外とか、プロスポーツでありますので、あまりそこを強くこだわってはおられません。

記者

読売新聞の竹田です。

冒頭、発表もございましたが、現在の県域になって150周年ということで、各種事業を行うということで、少しお話にもあったかと思えますが、改めて、今回この150周年事業を行う意義とか、あと現在、この山形県が150周年を迎えるということでそこに対する知事の何か思いなどありましたらいただけますでしょうか。

知事

言わば 150 歳の誕生年なのかなと思いますけども、山形県が、明治 9 年、1876 年に山形・鶴岡・置賜の三県が合併して、現在の県域に確定したということから、150 年ということで、本当に節目の年だなというふうに思っております。この 150 年というのを短いとみるか、長く見るかというのはそれぞれ視点が違うかもしれませんが、ただやはり一つの節目であると思っております。

様々この 150 年の間に歴史があったかと思っておりますけども、例えば、県立博物館では、今、特別展をやっております、「路(みち)」というのをテーマにして、そういう視点で 150 年の歴史を捉えております。そこから山形県の発展というようなことが見られるということでもありますし、いろいろな視点から考えられると思います。さくらんぼ一つ取りましても、さくらんぼは 1 年早くから導入されてまして、去年が 150 周年でありました。ほとんど同じというようなこともありまして、やはりその間、品種改良でありましたり、様々な歴史がありました。

県政は、県民の生活のあらゆる分野に関連するものでありますので、ぜひ、これまで県政発展のためにたくさんの方々が礎を作ってきてくださったという先人たちの思いとか実績、そういったことに目を向けていただいて、山形県の歴史を県民の皆様にしっかりと、認識というとおかしいんですけど、もう一度見つめなおしていただいたり、また誇りを持っていただいたり、そういうきっかけにさせていただきたいなと思っておりますし、今後に向けてということで、200 周年、250 周年、300 周年というふうに、どういいう山形県をつくっていかたいかというようなことを、子ども達や若い人達が考える、そういうきっかけにもなっていただければなというふうに思っています。

いずれにしても、今年一年は、150 歳の誕生年ということでもありますので、様々なイベントであったり、そういったことに皆さんから参加していただいたり、情報というものに接していただいて、いろいろな思いを持っていただければというふうに思っています。

記者

何度もすみません、TUY です。

クマ関連の質問です。先ほど市町村に対してのクマについてのアンケート結果を踏まえて対策をしていくとありましたけど、アンケートの結果って、どういったものがきてたでしょうか。

知事

6 月 9 日に、全市町村からの回収が完了したということでもありますけれども、詳しいことは、今から聞くことにしております。すみません。出張でいなかったのです。

記者

ざっくりどういった回答が来てたとかは、お聞きとかはしてない感じでしょうか。

知事

はい。今日聞くことになっております。

以上